

## 船舶事故調査報告書

平成25年7月11日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成25年1月16日 07時15分ごろ
発生場所	大分県大分市関埼北西方沖 大分県杵築市所在の臼石鼻灯台から真方位120° 5.6海里付近 （概位 北緯33° 21.6′ 東経131° 48.0′）
事故調査の経過	平成25年1月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 新漁丸、4.98トン OT3-8684（漁船登録番号）、個人所有 10.86m (Lr) × 2.72m × 0.77m、FRP ディーゼル機関、48kW、昭和56年6月30日
乗組員等に関する情報	船長 男性 56歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年7月9日 免許証交付日 平成23年4月27日 （平成28年12月24日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室及び操舵室が焼損
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、平成25年1月16日06時00分ごろ杵築市納屋漁港を関埼北西方沖の漁場に向けて出港し、06時30分ごろ、船長が、機関室からの異臭に気付いたが、主機動力取出軸によって駆動されるベルトがスリップしたときも異臭がするので、今回もその臭いと思い、漁場に至ってえい網中に点検することとした。</p> <p>船長は、納屋漁港出港前に主機の潤滑油量等を点検したが、その際、機関室内に異常を認めなかった。</p> <p>船長は、06時50分ごろ関埼北西方沖の漁場に至って底引き網を投下したのち、約2ノットの速力でえい網を開始し、07時15分ごろ、機関室内を点検しようとして操舵室後方の甲板に設けられた機関室入口の蓋を開けたところ、室内に炎は見えなかったものの、白煙が</p>

	<p>充滿しており、自動消火器を機関室入口から投げ入れたのち、主機を停止した。</p> <p>船長は、持運び式消火器及びバッテリー電源の海水ポンプを使用して消火に努めたが、前記の機関室入口から黒煙が噴き出して来たので、火災状況を確認しようとして操舵室の床に設けられた機関室入口の蓋を開けたところ、炎が噴き出して天井等に燃え移り、操舵室から退避した。</p> <p>本船は、付近で作業中の僚船が本船の火災に気付いて来援し、消火器や放水による消火活動が行われ、08時10分ごろ鎮火した。</p> <p>本船は、僚船にえい航されて納屋漁港に入港したが、操舵室及び機関室の焼損が激しいので、廃船処分された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南、風速 約2m/s、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>主機は、燃料噴射ポンプが右舷側に装備され、同ポンプによって加圧された燃料油が各シリンダの燃料高圧管を経て燃料噴射弁に供給されていた。</p> <p>主機は、本事故後、燃料高圧管及び右舷側に装備された吸気管の一部に溶損が認められた。</p> <p>操舵室は、焼失し、機関室は、燃料噴射ポンプから上方の天井、壁等が焼損したが、下方に設置されたバッテリー、海水ポンプ、主機のセルモーター等の焼損は少なかった。</p> <p>機関室の排気ファンは、2台設けられ、発停スイッチが操舵室の配電盤に設けられており、本事故発生当時、1台が運転されていた。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、関埼北西方沖をえい網中、機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>主機は、燃料高圧管に亀裂、取付けナットの緩みなどを生じて燃料油が漏えいし、同油が排気管の高温部に付着して発火した可能性があると考えられるが、燃料高圧管が溶損したことから、燃料油の漏えい状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、関埼北西方沖をえい網中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異臭に気付いた場合は、速やかにその発生源を調査すること。</li> <li>・ 小型船の機関室から火災が発生した場合、海象、周囲の船舶の状況等を確認の上、主機及び機関室ファンを停止するとともに、機</li> </ul>

	<p>関室の入口戸を閉め、可能な限り、密閉消火すること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 機関室には、火災警報探知器及び自動消火器の設置が望まれる。</li><li>・ 主機の燃料噴射ポンプ、燃料高圧管等の点検整備を定期的に行うこと。</li><li>・ 主機の排気管を点検し、ラギングの脱落などにより、排気管が裸出している箇所にはラギングを取り付けること。</li></ul>
--	---